

道徳の時間で活用する ～自然愛護～

周防大島町立久賀小学校 江東 真由美

1 本場面におけるポイント

- 読書活動の一環として、「フェアブル」の本を読む活動を生かす。
- 生活科の「生きものはかせ」の学習と関連させ、自己の体験から課題意識をもって考えさせる。
- 学習後、生活科で飼っていた生きものと接する際の実践につなげる。

2 授業の実際

1 主題名 生きものにやさしく

2 ねらい

身近な自然に親しみ、動植物にやさしく接しようとする態度を育む。

3 展開

(1) 導入 飼っている虫のことについて考える。

教師：今、生き物を飼っているけれど、どんな気持ちで飼っていますか。

A児：早く大きくなってね。

B児：気持ちよく生活してほしいな。

C児：餌が見つからないで困ったよ。

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等
生活科で飼っている生きものに対する気持ちを想起させ、「わたしたちの道徳」1・2年生用 P103」に記入させる。自己の体験と関連付けることで、課題意識をもって考えさせる。



「わたしたちの道徳」P103

(2) 展開 「虫が大すきーアンリ・フェアブルー」について話し合う。

①

教師：虫を見つけたとき、フェアブルは、どんなことを思っていたのでしょうか。

A児：何が鳴いているのかな。

B児：虫が好きだ。博士になりたい。

②

教師：不思議に思ったことを調べているとき、どんな思いでいるのでしょうか。

A児：不思議だな。

B児：ありは、頭がいいんだな。

C児：もっと調べてみたいな。

③

教師：観察が終わったファーブルは、どんな思
いで虫を逃がしたのでしょうか。

A児：もといたところに返そう。

B児：ありがとう。ごめんね。

B児：ずっと元気でいてね。



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

ファーブルの本やどのようなことをした人物なのかを紹介することで、ファーブルという人物をより捉えやすくした。

上記の3点についてファーブルの心情を考えさせたが、挿絵を提示することで考えやすくした。

(3) 終末

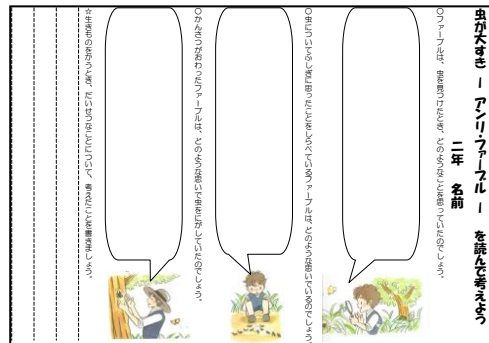
教師：生き物を飼うとき、大切なことについて考えよう。

(ワークシートより)

- ・餌をちゃんとあげる。
- ・餌をあげて、ふんの始末をして、霧吹きでしめらせて、生き物にやさしくする。
- ・死なないように観察する。
- ・早く観察してもとの所に返す。
- ・大切な命を預かるから、命を絶対なくさないようにすること。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

自己の振り返りとして、「生き物を飼うときに大切なこと」をワークシートに記入させた。そうすることで、生活科で飼っている生き物などに対して、今後どう接していくか、実践につなげていけるようにした。



3 実践を振り返って

事前に読書活動において、ファーブルの本を読むことを勧め、ファーブルの経歴について話しておいたことにより、資料の内容がよく理解できた。また、生活科で生き物を飼っていることで、よりファーブルの気持ちに寄り添って考えることができた。

児童は、生き物をよくお世話していたが、本時を学習したことにより、さらによく観察するようになった。また、「いつまでも飼いたい。」という気持ちが強かった児童も、「自然にかえしてあげることが一番だ。」という気持ちに変化していったようだ。

読み物資料「虫が大すきーアンリ・ファーブル」は、生活科と合わせて学習することで、学びがより深いものになると感じた。